

になっているか」という見方で考えればよいことに気付かせるために、既習単元での学習内容である「1分は1時間を60等分したうちの1つ分を示している。」という見方を想起させる見通しの学習活動に取り組みさせた（図6）。具体的には、本時に関連する既習内容をホワイトボードに示し、時間の関係について扇形と同じような図形を基にして考えたことを想起させた。この指導により、求めたい扇形の中心角を360で割れば、円の面積に対する扇形の面積の割合が明らかになることに気づき、課題の解決に取り組むことにつながった。

第3章 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」に基づく「思考・判断・表現」の指導と評価

1 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定

第1章3で述べた「判断基準」を、学習内容の関連を踏まえて設定すると、思考力・判断力・表現力の継続的な育成を確実に行うことができると思う。

学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定は、図7のようにして行う。具体的には、前回の学習内容と比較してどのような向上を図ることができるか、前回学んだどのような力を本単元ではどう生かしているかなどの関連の様相を分析することによって、妥当性の高い「判断の要素」や「判断基準」を設定する。そして、習得した知識・技能の活用を図る、思考力・判断力・表現力が最も発揮される場面において、評価を実施する。

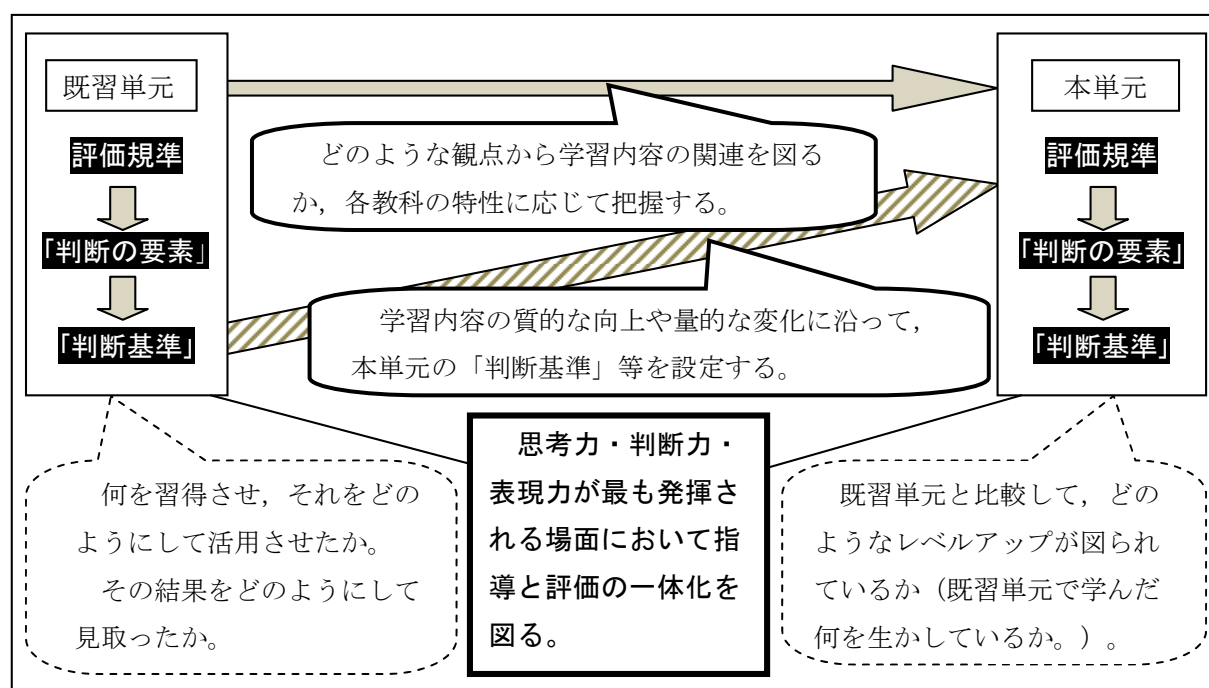


図7 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定（単元間に学習内容の関連がある場合）

この学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定は、文部科学省が平成26年3月31日にとりまとめた「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会—論点整理—【主なポイント】」の「③育成すべき資質・能力に対応した学習評価について」の項で示されている「評価の基準を、『何を知っているか』にとどまらず、『何ができるか』へと改善することが必要。（後略）」との指摘に対応する一方策となり得るものとする。「何ができるか」とは、課題の解決に必要な「知っている」ことは何であるかをこれまで学習したことの中から見付け出し、それを活用してひとまとまりの文章に表現することができるということや、そのことによって課題を主体的に解決するために自ら思考・判断・表現することができる、というこ

とを指しているといえることができる。その際、学習内容の関連を踏まえて「判断基準」を設定すれば、学習によって身に付けた知識・技能や、活用することによって発揮された思考力・判断力・表現力を明示することができることになり、より効果的・効率的な評価が期待できる。

また、学習内容の関連を踏まえて「判断基準」を設定することは、妥当性・信頼性のある評価に結び付くとともに、適切な教材研究にもつながることから、評価の面から教材研究のポイントを見つめ直すことにもつながる有効な手段となるものと考え（図8）。

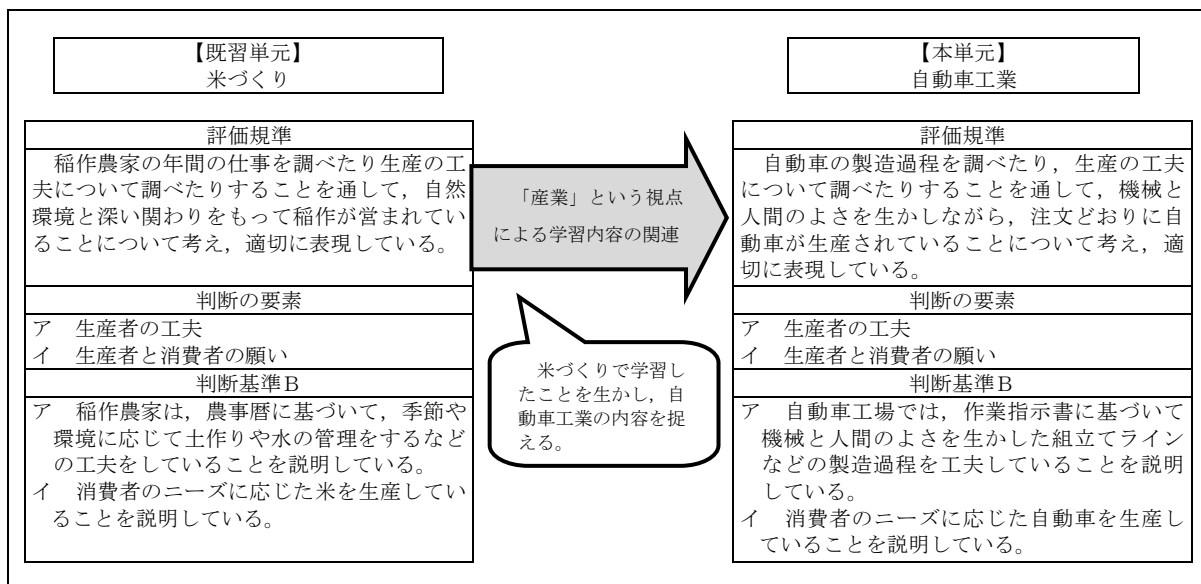


図8 学習内容の関連を踏まえた「判断基準」の設定例（小学校5年社会科）

2 「判断基準」に基づく「思考・判断・表現」の評価

学習内容の関連を踏まえて、既習単元時より本単元時が、また本単元時より次単元時が、質的・量的に向上するように設定された「判断基準」を用いることにより、児童生徒の表現をより適切に評価することができる。例えば、理科（中学校第2学年単元「消化と吸収」）における「判断基準」では、既習単元「物質が水に溶けるとは」との学習内容の関連を踏まえて設定し、生徒の表現を評価した（下線部が既習単元との学習内容の関連を踏まえて設定された部分）。

評価規準 消化によって食物が小腸の壁から吸収されやすい物質に変化することを、 <u>粒子のモデルと関連付けて自分の考えを表現している。</u>		生徒の表現	見取りと評価
判断基準B ア 小腸壁の穴よりも、デンプンは大きく <u>糖は小さいため、糖だけが通れることを粒子モデルを用いて表現できる。</u> イ 糖が吸収されやすいのは、消化により小腸壁の穴を通れるくらい <u>小さくなったためである</u> ことを、科学的な言葉や概念を使って説明できる。		【C1状況】 デンプンと糖の粒子の大きさの違いに気付いていない。	
判断基準A ・ 糖は水に溶ける小さな粒であり、 <u>デンプンはその粒がつながっているものであることをモデルを用いて説明できる。</u>		【B1状況】 デンプンの粒子・小腸壁の穴・糖の粒子の大きさの <u>関係と吸収の様子を正しく表現できている。</u>	
		【A1状況】 デンプンが糖の粒がつながっているものであることを粒子モデルで表現できている。	

3 「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導

評価を指導に生かすためには、「努力を要する」C状況と判断した児童生徒に対する指導（補充指導）が極めて大切であり、判断基準Bに基づく考え方や具体例等を示す必要がある。また、「おおむね満足できる」B状況と判断した児童生徒についても、その可能性を更に伸ばすために、「十分満足できる」A状況へ取り組ませる指導（深化指導）が必要である。

こうした「判断基準」に基づく評価結果を踏まえた指導を行う際には、思考力・判断力・表現力が最も発揮される言語活動や単位時間を想定して「判断基準」を設定した上で、全児童生徒がB状況以上になるよう指導することが重要である。その際、C状況の児童生徒に対しては、判断基準Bを指導のポイントとして具体的な手立てをとる（補充指導）。また、B状況の児童生徒に対しては、判断基準Aを設定し、具体的な手立てを講じる（深化指導）（図9）。

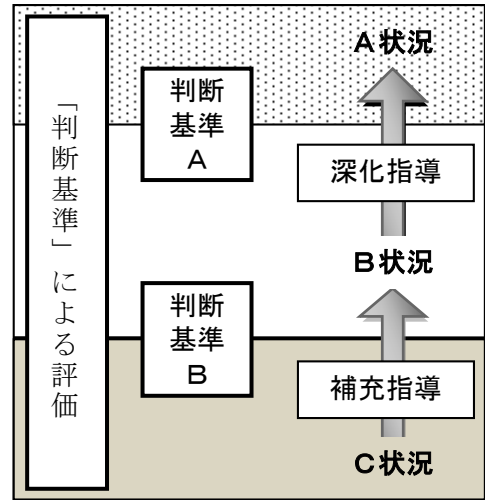


図9 評価結果を踏まえた指導

これらの指導を計画する際、学習内容の関連を踏まえることによって、次のような利点があると考えている。

- 補充指導… 学習内容の関連を踏まえることで、既習単元の学習内容を想起させるなどして、気づきを促すことができる。
- 深化指導… 学習内容の関連を踏まえることで、次単元の学習に生きて働くように、新たな視点を提示することができる。

外国語科の実践例（補充指導の結果、B状況になった生徒の作品）

Welcome to Ibusuki.
 Hello. I am [redacted].
 I like softball. I played softball when I was in elementary school.
 I enjoy listening to music in my free time.
 Kagoshima ^{ken} is famous for black pig.
 I think that it's delicious. I like black pig very much.
 There is a tall mountain in Ibusuki.
 It's Mt. Kaimon. You can climb it.
 You can see beautiful view from the top.
 Thank you very much.

当初は判断基準Bのこの項目にある「自分のことについての情報」が欠落していたため、C状況であると評価した。そこで、既習事項で用いた過去形やenjoy～ingなどの言語材料を振り返らせ、情報の追加を指導した。（補充指導）

更に充実した英文（A状況）にするために、既習単元で用いた「トピックの提示」の際に用いる「I'm going to talk about～」という表現を想起させ、指宿の紹介文を追加させたり、I climbed Mt. Kaimon.などの、自分の経験が明確になるような英文を追加させたりすることができる。（深化指導）